

# 連続講座「天台本覚思想史」第6回 開催のお知らせ

## （講師からのコメント）

日蓮教団の歴史を考える際に、日蓮教学の母胎となった天台教学の「権実論」「本迹論」「教観論」の問題は非常に重要である。それらの教義をどのように解釈するかをめぐって教団内で対立が起こり、教義解釈の相違を大義名分として日蓮教団は分裂していった。

日本の中古天台において、権実論、本迹論、教観論を一つにまとめた一種の教判に「四重興廃」がある。四重興廃の原意は、智顗の『法華玄義』の「絶待妙釈」に説かれている。湛然はこの文を「（四）教、本迹、および観心と展転して相い絶す」と解釈しているから、智顗の「四重の展転相絶」説は、迹門の大教が興れば、方便（爾前）の教が亡じ、本地の大教が興れば、迹門の教が亡じ、観心の妙が興れば、本地の教が亡じて、（A）爾前→（B）迹門→（C）本門→（D）観心と展転興廃して（浅深次第の相待差別義）、「絶待妙」（円融相即の絶待平等義）を論ずる教説である。

中古天台の四重興廃思想は、（一）法華最勝思想（法華超八醍醐の思想）、（二）本迹浅深思想（本迹相对思想）、（三）観心成仏思想（観心絶対思想）を内容としているから、日蓮教学との関係をどのように考えるかが日蓮門下各教団の重要な課題となった。

（※）なお当日は、日蓮教学の研究者でドイツ在住の松戸行雄博士が来日して聴講されるので、ドイツにおける日蓮仏教の布教の現状についてお話をお伺いしたいと思っている。

## 【 記 】

日 時：平成28年 3月17日（木）午後6時30分より 8時30分終了

会 場：新宿 常円寺 祖師堂 地階ホール

講 題：四重興廃思想と日蓮教学

講 師：花野 充道 先生 （法華仏教研究会 主宰）

聴講料：千円

（花野充道先生「天台本覚思想史」の講義内容）

- |                        |                             |
|------------------------|-----------------------------|
| ○第1回講義 「本覚思想の定義をめぐって」  | ○第2回講義 「天台智顗と『起信論』の仏身論の対比」  |
| ○第3回講義 「本覚思想の歴史的展開」    | ○第4回講義 「本覚思想と基体説」           |
| ○第5回講義 「天台本覚思想文献の時代設定」 | ○第6回講義 「四重興廃思想と日蓮教学」（3月17日） |

お申込みは 下記の項目に明記して FAX番号 042-627-7227 へ！

参加者氏名：\_\_\_\_\_ 歳 \_\_\_\_\_ 男・女  
住 所：〒\_\_\_\_\_ 電話：\_\_\_\_\_  
携帯：\_\_\_\_\_ メール：\_\_\_\_\_